

温故知新。

この文様は遡ること平安時代の古くから親しまれてきています…
正三角形を組み合わせて六角形とした幾何学的文様は、健やかな成長の願いが込められ、やさしさと安心感から庶民に親しまれてきた日本古来の文様です。
魔除けの意味もあり、昔から産着の柄として使われてきた様です。

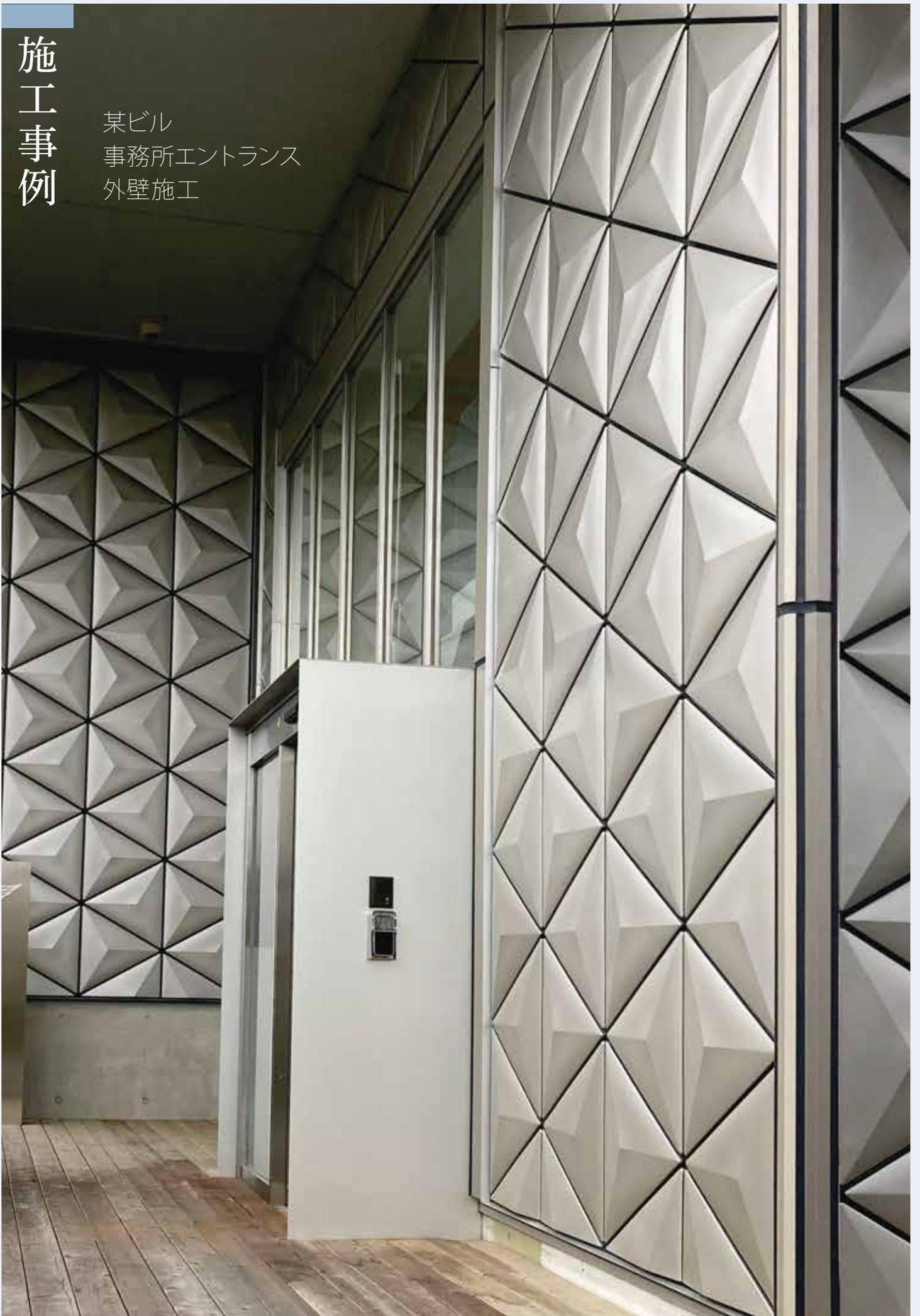
その〈麻の葉〉を建築外装材として纏う「麻の葉 Panel」古き良き伝統は、環境建築素材の新建築技術として、ここに誕生。

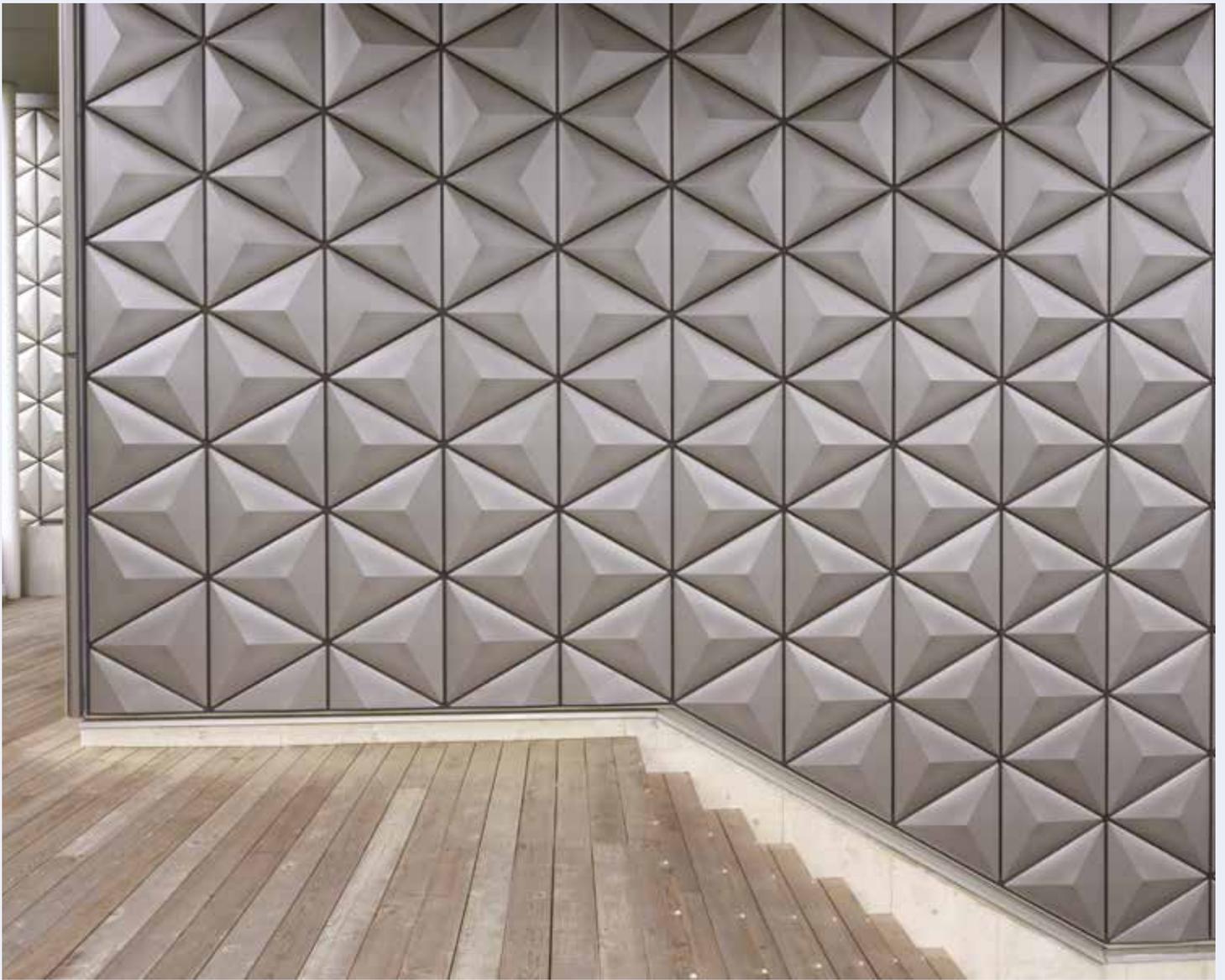
日本伝統文様の〈麻の葉〉から誕生した新しい建築外装材

麻の葉 Panel

施工事例

某ビル
事務所エントランス
外壁施工





事務所棟 駐車場前



事務所棟・倉庫接続部



倉庫搬入口

パネル表面色：DarkGreyMetallic(EuraBuild)

下地材：押出成形セメント板（事務所棟）、野地板（倉庫棟）

コーナー部：板金仕上げ

日本建築の伝統技術をイノベーション

日本古来の技術を現代的に昇華する新しい建築外装材

そのmeritを生かし、demeritを解消することによる画期的なアルミ新建材が誕生しました。

軽量性、耐候性、防汚性、防音性、追従性、断熱性、遮水性、維持管理性、施工性を考えつくしたPanel
倉庫から高層ビルの外壁面にまで利用できる革新的な外装材です。

建築外装材として建築を守る「麻の葉 Panel」

古き良き伝統は、環境建築素材の新建築技術として、ここに誕生。



茅葺屋根

日本古来の屋根素材は茅の空気層により、断熱効果が高く、通気性を持ちます。

→この空気性能を
麻の葉Panelに活かしています



瓦屋根

瓦は同じ形を重ねて面を構成し、裏側に空気層をつくり、断熱性を高めます。

→素材を重ね合わせる考え方は
麻の葉Panelに応用されています



下見板張り

土壁の上を板で覆い、その隙間の空気層を等圧にすることにより、雨から家を守る日本古来の技術。

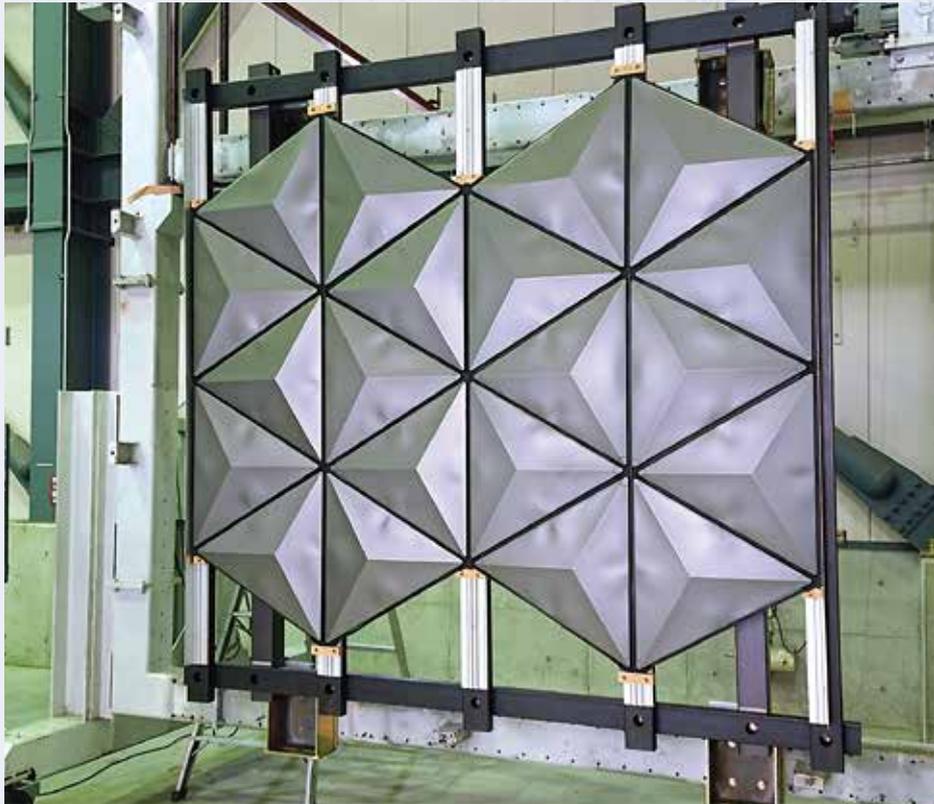
→同じ排水機構を
麻の葉Panelに採用しています



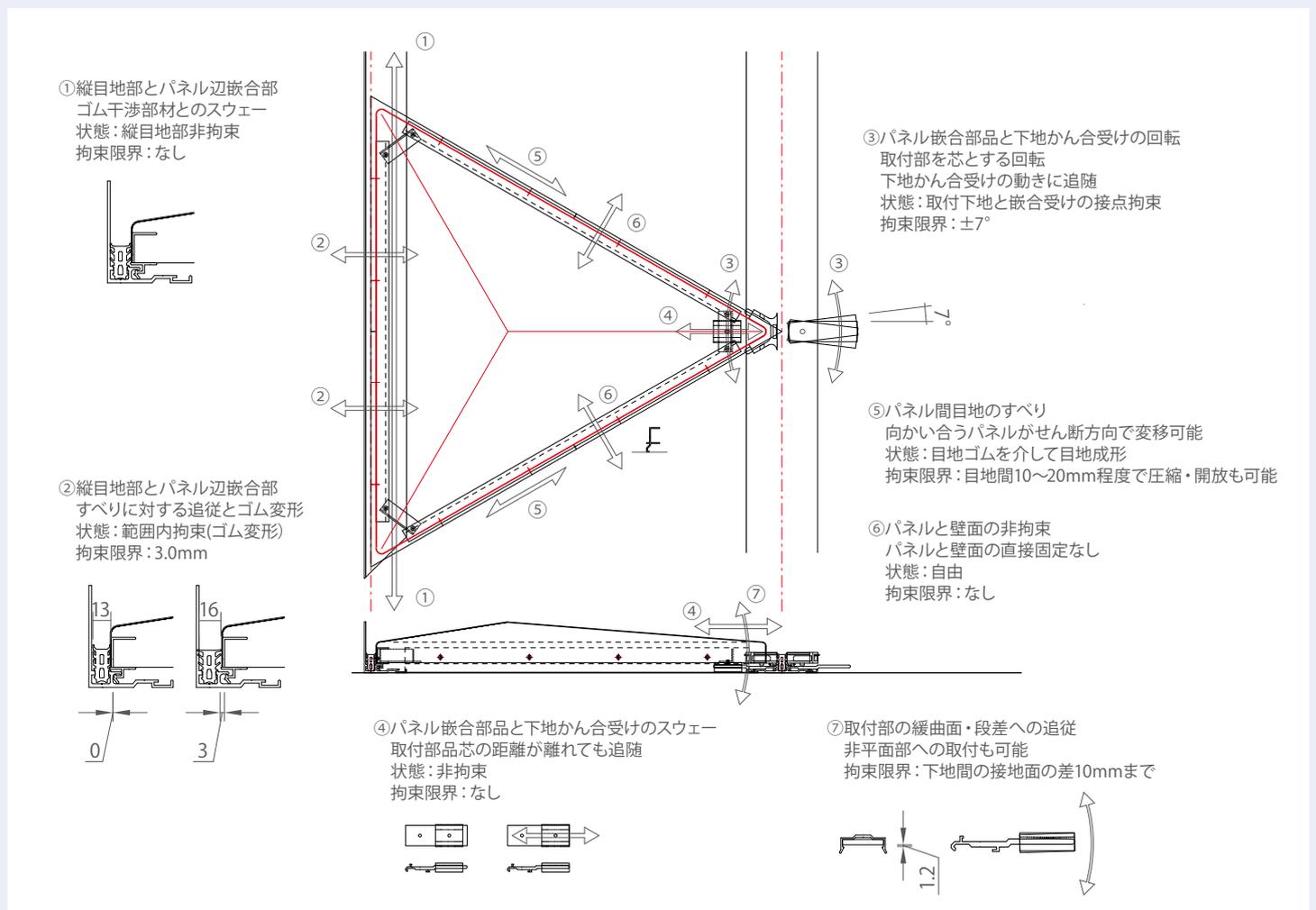
現代の建築技術にイノベーション (外装材建築性能)

- 層間変形追従性能：地震時の揺れに対応する変形追従性能最高クラス実現
- 目地の性能：変形時に発生するネジレやズレに追従し、耐候性と柔軟性、防汚性の優れた素材
- 施工性向上：パネルを浮揚状態で取り付ける簾合工法（特許取得済み）により、施工性を向上
- 断熱性能：建築物の外皮として、断熱性と通気性を保ち、環境性能向上を図る新外装材

面内変位に対する柔軟な可動性能



面内変位追従性能確認試験にて1/100mm以上の性能があることを確認済み。



製品の取付構造について特許取得済み (P2021-120503)

麻の葉Panel - アルミ遮熱外皮

板厚わずか0.8mmのアルミ製
麻の葉Panelによる建築物の外皮性能の向上

ダブルスキン -Double Skin

麻の葉Panelが日傘や簾のように直射日光を遮り、外壁・屋根の蓄熱や紫外線劣化を防ぎます

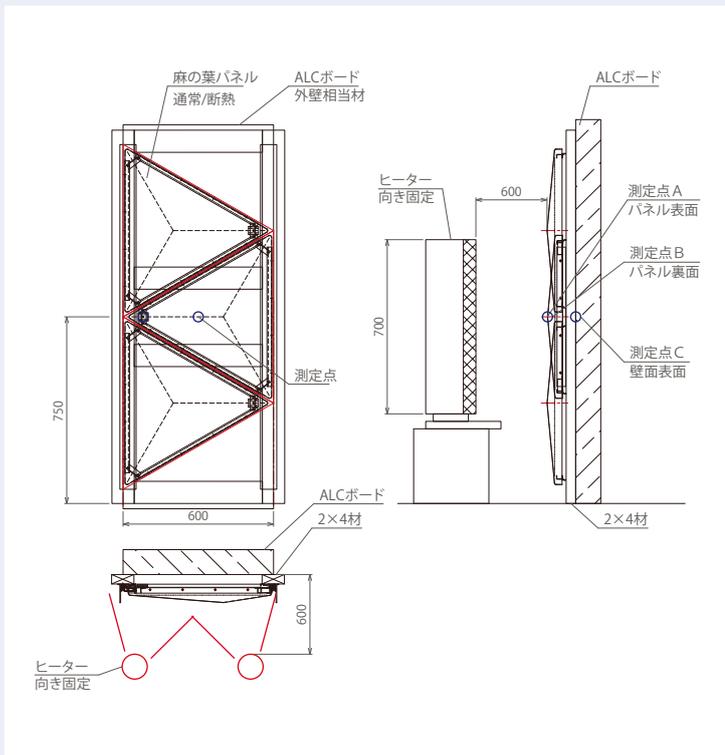
空気層放熱 -Heat sink

アルミは熱しやすく冷めやすいため、麻の葉Panelから効果的に空気中に放熱します

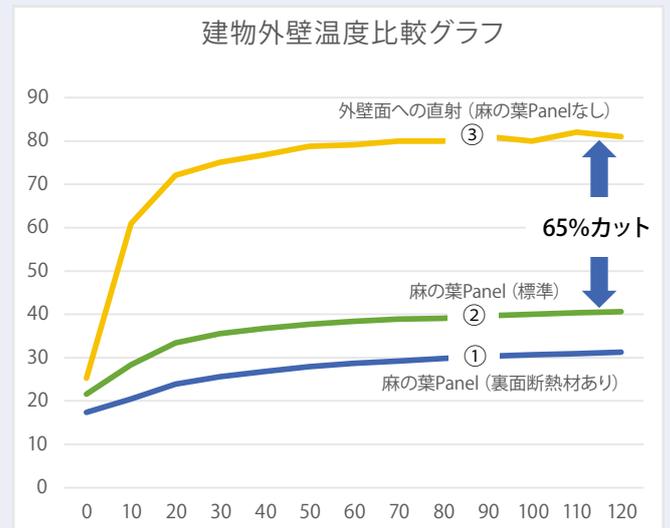
空気層遮熱 -Aero insulation

建築物と麻の葉Panelの間に空気層を設け、太陽熱による室内への熱の影響を低減します

実験仕様図

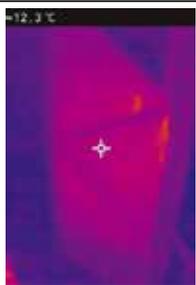
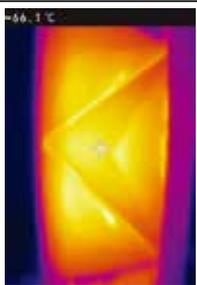
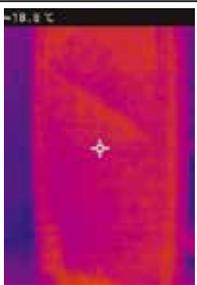
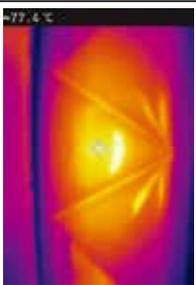
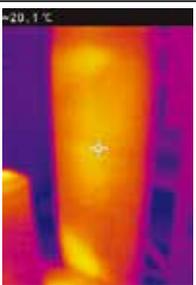
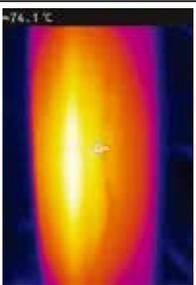


麻の葉パネル取付時の外壁温度の変移比較 外気温: 17.9~21.6°C



	①断熱あり	②標準	③外壁のみ
開始時の壁面温度 (測定点C)	17.4	21.6	25.3
2時間経過時の温度 (測定点C)	31.3	40.6	81
2時間後温度上昇量	13.9	19	55.7
外壁との上昇比	24.9%	34.1%	100.0%

パネル/壁面の表面温度の比較 (温度表示はサーモグラフィカメラでの放射温度測定による値)

麻の葉パネル断熱仕様 (測定点Aの温度)		麻の葉パネル (測定点Aの温度)		ALCボード (測定点Cの温度)	
開始前	2h加熱後	開始前	2h加熱後	開始前	2h加熱後
					
12.3°C	66.1°C	18.8°C	77.4°C	20.1°C	74.1°C

表面温度測定: 放射温度計/サーモグラフィカメラ 加熱器: 電熱線ヒーター: 100V・1000W×2台

革新的ですぐれた施工性



パネルの一方(長辺かん合部)を枠にはめこみます



パネルの頂点部分(かん合部)をパンツと叩き込みます



霧吹きで取付部を濡らしてから押し込み用の棒を使って目地ゴムをパネルの隙間に取り付けます。

パネルを取り付けるレールは、下地にビス固定するか、アンカーにブラケットを取り付けて固定。建物の変位に追従する**層間変位対応仕様**です。

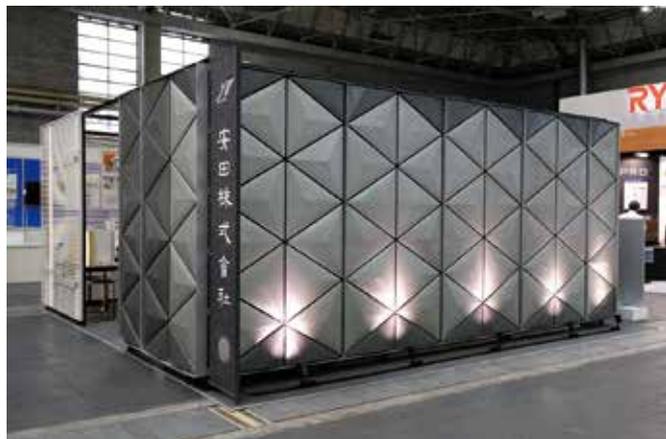
またパネルは現場でビスを使わない**かん合方式**で、スピーディーな取付が可能です。

外装材で特に劣化しやすい目地部は、高耐候性ゴムのガスケットによる**乾式(ドライ)工法**です。シーリング工事不要となり、パネルと目地の取付で工事が完了します。



パネル1枚当たりの取付は3分程度で完成します
(写真で約30分)

KENTEN2022での弊社展示ブース外観



2022年6月9～10日にインテックス大阪で開催されたKENTEN2022にて製品の初展示をいたしました。たくさんのご来場者にご関心いただき、ご相談をいただいております。

■本パンフレットに掲載されている内容は 2022 年 8 月現在の情報です。予告なしに変更される場合がございますので予めご了承ください。



安田株式会社

本 社 〒542-0081 大阪市中央区南船場1-11-9 (長堀安田ビル)
TEL 06-6251-7091(代) FAX 06-6262-3629 <http://www.ashibane.co.jp/>

■お問合せは・・・

札 幌 TEL 011-668-3021 名古屋 TEL 0587-95-4501

北関東 TEL 048-795-2351 大 阪 TEL 06-6268-3531

東 京 TEL 03-5858-0271 福 岡 TEL 092-504-2031